

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300592		
法人名	社会福祉法人 愛心会		
事業所名	グループホーム 高砂		
所在地	徳島県阿南市那賀川町芳崎366-1		
自己評価作成日	平成24年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サービス担当者会議や毎朝の申し送り時に利用者の心身状態について話し合う機会を持ち、検討して実践を繰り返すことでその人らしい生活が送れるよう努めている。利用者は事業所の行事以外にも、同一法人内で開催される行事に参加している。家族にも参加してもらい。利用者と家族の絆を大切にしている。医療面では、訪問診療や訪問看護を受け、休日や夜間の急変時には、併設事業所の看護師に連絡して医療機関と連携が図れるような体制を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一法人の運営する他サービス事業所を利用している方との交流を支援している。ボランティアの来訪を受け入れている。近隣住民に事業所の行事への参加を呼びかけるなどして地域との交流を図っている。事業所の共用空間は広く、適度な明るさと暖かい雰囲気があり、和やかな環境となっている。利用者一人ひとりの居室の窓からは、田園風景を眺めることができる。利用者は、日光浴を行いつつ会話や食事を楽しんだり、散歩や園芸等の気分転換を行ったりしている。また、利用者と職員で洗濯干しなどを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝の申し送りの時に、全職員が理念を唱和し理念の確認を行っている。職員一人一人が日々理念に沿った支援が出来るように取り組んでいる。	毎朝の申し送り時に職員間で理念を唱和し、理念にそった支援に繋げている。また、スタッフルームの目につきやすい場所に理念を掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は、近隣を散歩し近所の方と挨拶を交わす。近隣の子供センターからの訪問によるふれあいや、近隣にある道の駅の喫茶店に行き地域交流図っている。	散歩時などに地域住民と挨拶を交わしたり、地域の運動会等で交流を図ったりしている。敬老会等の行事への参加等について案内を行うなどして交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に民生委員の参加があり、暮らしぶりなどを話し認知症に対する理解をいただいている。人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。家族や地域包括センターの職員、意見要望をお伺いサービスの質の向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の活動報告や様々な議題について話しあっている。家族や参加者から出された意見や要望は、職員間で検討してサービスの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者に運営推進会議の内容を報告し実情やケアサービスの取り組みを伝えている。また問題があれば相談し協力関係を築けるよう努めている。	市担当者に、事業所の取り組みを報告している。事業所での問題解決に向けて相談を行うなど、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、全ての職員が身体拘束について理解を深めていけるようにしている。また、建物の2Fにユニットがあるため玄関はオートロックになっているが日中など見守りが充分にできるときは開放している。	身体拘束の廃止に関するマニュアルを作成している。毎月、勉強会を開催し、全職員が正しい理解を行うよう確認と再認識化を図っている。利用者の見守りを重視することで、玄関等を施錠することなく、一人ひとりの自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ機会を作り、利用者の自宅や事業所内で虐待がないよう注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての勉強会を開催し職員の理解に努めている。ご家族からの相談を受けることもあるので活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書の説明を充分に行い同意を得るようにしている。また解約時に経緯の説明を行い他施設の紹介、説明などを行い理解や納得をしていただけるように努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に意見、要望を聞きその意向に沿えるように努めている。運営推進会議でも家族の意見や要望を開いている。それらを運営に反映できるよう努めている。	毎月の支払い時に家族と面会を行い、利用者の状況説明を行ったり、意見や要望を聞いたりしている。家族へ事業所だよりを送付し、行事への参加を呼びかけたり、職員からのメッセージを伝えたりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、ミーティングや個別面談の機会を設け、職員の意見が反映できるように努めている。また職員会議を開催し意見や提案を聞く機会を設けている。	事業所の職員で構成する各種委員会を設置している。事業所の運営や行事等について話しあう機会となっている。出された提案や意見は、職員会議やミーティング時に取りあげて、運営面へ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、自己評価を取り入れている。また法人内で長期勤続者の表彰や資格取得者を発表するなど向上心をもってもらうようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の勉強会や外部研修に参加し、知識や技術の向上に努めている。勤務を通じて人材育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と相互訪問を行い、情報交換や意見交換を行うことでサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者(介護支援専門員)と看護師が利用者と面談を行い、不安や要望を傾聴し、事業所のサービス内容などを解りやすく説明し、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者(介護支援専門員)と看護師が家族と面談を行い、困っている事や不安、要望を傾聴し、事業所のサービス内容など解りやすく説明、安心できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の事情や要望を聞き取り、必要な支援を見極めるとともに状況に応じて他のサービスの説明や関連施設の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	表情や話を聞くなどして利用者の思いを共感し、喜怒哀楽を共にしている。また利用者の得意分野を生活に活かし職員が教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会に参加していただいたり、面会や電話などで日々の様子や利用者の思いを伝えている。利用者を支えていくための協力関係を築いていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所や友人の面会があり、馴染みの関係が継続している。馴染みの美容室に行ったり1階にあるデイサービスの友人に会いに行くなど継続的な交流ができるように働きかけている。	近隣の“道の駅”の喫茶店で馴染みの人と交流したり、同一法人の運営する他サービス事業所を利用している友人と継続的に交流したりしている。家族の協力を得て、美容院や墓参りなどの外出支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の個性や相性などに配慮し、孤立せずに共に楽しめるようレクリエーションや作業をしていただいている。利用者どうしの良好な関係を築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣の施設サービスの利用時や入院時に情報の提供を行っている。また施設や病院に面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと話しを聞く時間を作り、利用者の思いや希望を把握できるよう努めている。利用者から聞くことが困難な場合には日々の表情や言葉から汲み取り、また家族や関係者からの情報を得るようにしている。	職員は、利用者にゆっくりと寄りそって話を聞くよう努め、相互に信頼関係を構築することができるよう取り組んでいる。利用者の些細な表情の変化やしぐさなどから、思いや意向を把握するよう努めている。家族からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご自宅に訪問し、生活歴や入居に至るまでの経過などを本人や家族さんから聞くなどし入居後もご家族様から継続して情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身の状況を把握し、日々の暮らしの中で出来る事の新たな発見あり、全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族に思いや意見をお聞きしたり、職員全体で意見交換しそれをふまえて介護計画を作成している。	家族の来訪時に要望や意見等を聞くようになっている。利用者と家族の思い出話を聞いている。職員間で話し合いを行い、出された意見等を介護計画に反映している。利用者一人ひとりの現状に応じた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況や職員の気づきを個々のケア記録に記載し、勤務開始前に情報の確認を必ず行っている。また申し送り時に情報を共有し、より良いケアの実施、介護計画の見直しができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のニーズに対し、併設事業所の器具を利用したりリハビリ等や隣接事業所の管理栄養士から食事面の助言をもらっている。また夜間の急変時に看護師の応援要請ができるシステムを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や地域の施設へ訪問するなど行っている。運営推進会議に地域包括センターの職員や民生委員の方に参加していただき意見交換する場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に利用者や家族に希望を聞き、納得が得られれば協力医療機関の医師がかかりつけ医となり週1回の訪問診療を行うなど適切な医療がうけられるよう支援している。	同一法人の運営する医療機関を主治医としている利用者が多い。月3～4回の往診がある。家族の協力を得たうえで、専門医の受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に状態変化や異常があれば、すぐに看護師に伝え適切な看護が受けられるように支援している。また普段の健康管理や観察の視点を話しあえる機会をもつようしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族と相談しながら医療機関に対して、利用者の情報を提供している。またできるだけ早期に退院が出来るよう病院関係者や家族と連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者や家族に重度化した場合の説明を行っている。また職員や医師とともに支援方法について検討しながら取り組んでいる。	重度化した場合の指針を作成している。職員間で支援方法について検討し、医療関係者と密に連携を図ることができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、法人内で勉強会を行っている。消防署の協力を得て蘇生術の研修を実施し、全ての職員が対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、併設事業所と合同で避難訓練を行っている。地域住民との合同訓練は行っていないが、運営推進会議に民生委員の参加があり、災害時についての話し合いの機会を持っている。	災害時対応マニュアルを作成している。併設事業所と合同で避難訓練を実施している。また、年1回、夜間を想定した訓練を実施している。運営推進会議で議題として取りあげ話しあっているが、地域との協力体制を十分に構築するまでには至っていない。	災害時における利用者の安全確保をより確実に行うためには、地域住民や民生委員、各種関係機関等の協力が不可欠であることから、今後、具体的な話し合いの機会を確保するなどしてより実践的な取り組みへ繋げられるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけや対応について話し合いの機会を持ち、常に意識するように努めている。またし過ぎない介護を心がけ、利用者の自尊心を傷つけないように努めている。	職員は、利用者への声かけや対応に留意している。排泄や入浴介助時には、他者の目に配慮している。つねに全職員で、利用者のプライバシー確保について確認しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思決定できる環境作りに努めている。意思表示が困難な方に対しては、職員が日頃の生活の中から思いを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールはあるが、利用者の体調や希望により時間を変更したり、利用者のペースに合わせた暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の状況に応じて声かけや介助を行っている。馴染みの美容室に行かれる方や家族が散髪されている方もいられる。遠足や特別な行事などに着る服を職員選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の個々の能力に応じて、また利用者の意向により調理や後片付けに参加していただいている。職員と利用者が同じテーブルで会話をしながら食事をし、楽しい雰囲気作りを心がけている。	利用者一人ひとりの力量に応じた役割を担ってもらっている。利用者と職員は同じ場所で食事をとり、味つけや献立等の会話を交わすなどして楽しい時間を過ごしている。ホットケーキやサンドイッチなどのおやつづくりもともに行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態を一人一人の状態に合わせて調理している。病状等に応じた食事の提供や水分を取りたがらない方には好みの飲み物で水分量を確保するなどの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の持てる力に合わせて口腔ケアの声かけや介助を行い、清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の歯説パターンやサインを把握し、できるだけトイレで排泄できるように支援している。自尊心に配慮しながら失禁の確認をし不快感が少なくなるようにしている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、効果家を行っている。また、朝・昼・夕に、利用者全員へ声かけを行って排泄を促している。排泄の失敗を減らすよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ラジオ体操やウォーキングを行い、十分な水分と繊維の多い食事を提供している。水分や野菜を取りたがらない利用者には、好みの飲料水や調理の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴していただいている。ゆっくりと時間に余裕をもって入浴していただける。	利用者の希望する時間に入浴することができるよう、一日中、浴槽にお湯を溜めている。脱衣場や浴室の温度にも留意している。同性介助にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを把握し、その日の体調や状況に配慮している。夕食後は、自室で過ごされたりホールのテレビを見たり、談話されたりと個々の就寝前のリラックスした雰囲気作りを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容をファイルし、職員全員が用法等に理解するように努めている。状態の経過や変化を看護師に報告し、医師の指示を仰いでいる。服薬ミスが無いように徹底した確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割やレクリエーションで、それぞれの趣味や得意分野を生かした支援を行っている。遠足や慰問、季節ごとの行事などで一人一人に合わせた支援を行い、楽しく参加できるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って外出できるように、ご家族の協力もいただき支援している。	季節に応じた花見や遠足へ出かけている。また、利用者の希望に応じて、道の駅の喫茶店やスーパーでの買い物、外食等へ出かけている。家族の協力を得て、墓参りや一時帰宅等の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			那賀川ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には、利用者自身が支払えるように希望や力に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自由に電話を掛けれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度には常に気を配り、快適に過ごせるように配慮している。日当たりのいい場所にソファを置き、ゆっくり過ごせるよう空間を確保している。	室内の温度や湿度管理を行い、厚着にならないよう留意している。共用広間にゆったりと座ることのできるソファを設置しており、利用者はテレビ鑑賞や会話を楽しんでいる。ベランダでは、景色を楽しんだり、日光浴を行ったりして気分転換を図ることができる。共用空間には、利用者の障がいとなる物品を置かないよう気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関のベンチやホールのソファ、ベランダのベンチで一人や仲のいい利用者同士で過ごせる工夫をしている。食事の席やレクの席など利用者の希望に沿った配置となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある物や大切にしている物を持ってきているようにしている。持込の少ない方には利用者の好きな絵を飾るなどして暖かい雰囲気になるように工夫している。	家族と相談したうえで、利用者一人ひとりの使い慣れた物品や好みの品物を持ち込んでもらっており、一人ひとりにとって居心地の良い空間となっている。安全面への配慮と清潔の保持に留意している。居室の入り口には、利用者の顔写真や名札を掲示し、一人ひとりが安心して過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視力低下がある利用者には部屋の家具や物の位置を変えないようにしている。部屋の位置がわからない利用者にはドアに表札をつけ分かりやすくしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			吉野川ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝の申し送りの時に、全職員が理念を唱和し理念の確認をしている。職員一人一人が日々理念に沿った支援が出来るように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	天気の良い日は、近隣を散歩し近所の方と挨拶を交わす。近隣の子供センターからの訪問によるふれあいや、近隣にある道の駅の喫茶店に行き地域交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に民生委員の参加があり、暮らしぶりなどを話し認知症に対する理解をいただいている。人材育成の貢献として、実習生の受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。家族や地域包括センターの職員、意見要望をお伺いしサービスの質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者に運営推進会議の内容を報告し実情やケアサービスの取り組みを伝えている。また問題があれば相談し協力関係を築けるようにつとめている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、全ての職員が身体拘束について理解を深めていけるようにしている。また、建物の2階にユニットがあるため玄関はオートロックになっているが、日中など見守りが充分にできるときは開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ機会を作り、利用者の自宅や事業所内で虐待がないよう注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			吉野川ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての勉強会を開催し職員の理解に努めている。ご家族からの相談を受けることもあるので活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書の説明を充分に行い同意を得るようにしている。また解約時に経緯の説明を行い他施設の紹介、説明などを行い理解や納得をしていただけるように努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に意見、要望を聞きその意向に沿えるように努めている。運営推進会議でも家族の意見や要望を聞いている。それらを運営に反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、ミーティングや個別面談の機会を設け、職員の意見が反映できるように努めている。また職員会議を開催し意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、自己評価を取り入れている。また法人内で長期勤続者の表彰や資格取得者を発表するなど向上心をもってもらうようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会や外部研修に参加し、知識や技術の向上に努めている。職務を通じ人材育成を行えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と相互訪問を行い、情報交換や意見交換を行うことでサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			吉野川ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者(介護支援専門員)と看護師が利用者と面談を行い、不安や要望を傾聴し、事業所のサービス内容などを解りやすく説明し、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者(介護支援専門員)と看護師が家族と面談を行い、困っている事や不安、要望を傾聴し、事業所のサービス内容などを解りやすく説明、安心できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の実情や要望を聞き取り、必要な支援を見極めるとともに状況に応じて他のサービスの説明や関連施設の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	表情や話を聞くなどして利用者の思いを共感し、喜怒哀楽を共にしている。また利用者の得意分野を生活に活かし職員が教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会に参加していただいたり、面会や電話などで日々の様子や利用者の思いを伝えている。利用者を支えていく為の協力関係を築いていけよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所や友人の面会があり、馴染みの関係が継続している。馴染みの美容室に行ったり1階にあるデイサービスの友人に会いに行くなど継続的な交流ができるように働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の個性や相性などに配慮し、孤立せずに共に楽しめるようレクリエーションや作業をしていただいている。利用者どうしの良好な関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			吉野川ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣の施設サービスの利用時や入院時に情報の提供を行っている。また施設や病院に面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと話しを聞く時間を作り、利用者の思いや希望を把握できるよう努めている。利用者から聞くことが困難な場合には日々の表情や言葉から汲み取り、また家族や関係者から情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご自宅に訪問し、生活歴や入居に至るまでの経過などを本人や家族さんから聞くなどし入居後もご家族様から継続して情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身の状況を把握し、日々の暮らしの中で出来る事の新たな発見もあり、全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族に思いや意見をお聞きしたり、職員全体で意見交換しそれをふまえて介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況や職員の気づきを個々のケア記録に記載し、勤務開始前に情報の確認を必ず行っている。又申し送り時に情報を共有し、より良いケアの実施、介護計画の見直しができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のニーズに対し、併設事業所の器具を利用したりリハビリ等や隣接事業所の管理栄養士から食事面の助言をもらっている。また夜間の急変時に看護師の応援要請ができるシステムを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			吉野川ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や地域の施設へ訪問するなど行っている。運営推進会議に地域包括センターの職員や民生委員の方に参加していただき意見交換する場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に利用者や家族に希望を聞き、納得が得られれば協力医療機関の医師がかかりつけ医となり週1回の訪問診療を行うなど適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に状態変化や異常があれば、すぐに看護師に伝え適切な看護が受けられるように支援している。また普段の健康管理や観察の視点を話しあえる機会をもつようしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族と相談しながら医療機関に対して、利用者の情報を提供をしている。またできるだけ早期に退院ができるよう病院関係者や家族と連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者や家族に重度化した場合の説明を行っている。また職員や医師とともに支援方法について検討しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、法人内で勉強会を行っている。消防署の協力を得て蘇生術の研修を実施し、全ての職員が対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、併設事業所と合同で避難訓練を行っている。地域住民との合同訓練は行っていないが、運営推進会議に民生委員の参加があり、災害時についての話し合いの機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	吉野川ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけや対応について話し合いの機会を持ち、常に意識するように努めている。またし過ぎない介護を心がけ、利用者の自尊心を傷つけないように努めている。					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思決定できる環境作りに努めている。意思表示が困難な方に対しては、職員が日頃の生活の中から思いを汲み取るように努めている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールはあるが、利用者の体調や希望により時間を変更したりし利用者のペースに合わせた暮らしを支援している。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の状況に応じて声かけや介助を行っている。馴染みの美容室に行かれる方や家族が散髪されている方もいられる。遠足や特別な行事などに着る服を職員と選んだりしている。					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の個々の能力に応じて、また利用者の意向により調理や後片付けに参加していただいている。職員と利用者が同じテーブルで会話をしながら食事をし、楽しい雰囲気作りを心がけている。					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態を一人一人の状態に合わせて調理している。病状等に合わせて食事の提供や水分を取りたがらない方には好みの飲み物で水分量を確保するなどの工夫をしている。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の持てる力に合わせて口腔ケアの声かけや介助を行い、清潔の保持に努めている。					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			吉野川ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンやサインを把握し、できるだけトイレで排泄できるように支援している。自尊心に配慮しながら失禁の確認をし不快感が少なくなるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ラジオ体操やウォーキングを行い、十分な水分と繊維の多い食事を提供している。水分や野菜を取りたがらない利用者には、好みの飲料水や調理の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴していただいている。ゆっくりと時間に余裕をもって入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを把握し、その日の体調や状況に配慮している。夕食後は、自室で過ごされたりホールのテレビを見たり、談話されたりと個々の就寝前のリラックスした雰囲気作りを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容をファイルし、職員全員が用法等に理解するように努めている。状態の経過や変化を看護師に報告し、医師の指示を仰いでいる。服薬ミスがないように徹底した確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割やレクリエーションで、それぞれの趣味や得意分野を生かした支援を行っている。遠足や慰問、季節ごとの行事などで一人一人に合わせた支援を行い、楽しく参加できるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って外出できるように、ご家族の協力もいただき支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			吉野川ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には利用者自身が支払えるように、希望や力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自由に電話を掛けれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度には常に気を配り、快適に過ごせるように配慮している。日当たりのいい場所にソファを置き、ゆっくり過ごせる空間を確保している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関のベンチやホールのソファ、ベランダのベンチで一人や仲のいい利用者同士で過ごせる工夫をしている。食事の席やレクの席など利用者の希望に沿った配置となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある物や大切にしている物を持ってきているようにしている。持込の少ない方には利用者の好きな絵を飾るなどして暖かい雰囲気になるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	視力低下がある利用者には部屋の家具や物の位置を変えないようにしている。部屋の位置がわからない利用者にはドアに表札をつけ分かりやすくなるようにしている。		